

CONTENTS / 目次

- 2 鈴木雄介選手が世界陸上金メダル獲得!
- 4 特集 訪問介護・看護という仕事
- 11 市民と市政の歩み
 - ・能美市に機能別消防団 発足!
 - ・石川県農林水産業功労者知事表彰
 - ・ピティナ・ピアノコンペティション 宮本さんと東出さんが金賞受賞 など
- 14 市役所からのお知らせ
 - ・「マイナンバーカード」を作しましょう!
 - ・義援金について
 - ・初めて出産する妊婦さんに訪問を実施しています
 - ・危険ブロック塀除却補助制度があります
 - ・11月は児童虐待防止推進月間です
 - ・共に暮らしやすい共生社会の実現のために
 - ・不動産期間入札公売
 - ・免許返納者用のみバスフリーパス券
 - ・おでかけバスポート
 - ・プレミアム付商品券引換券の申請受付
 - ・社会保険料(国民年金保険料)控除証明書が発行されます など
- 22 情報ひろば
- 25 主要行事・イベント実施予定
- 26 国造ゆず祭り、市民公開講座、ロシア風新年会
- 27 いしかわ動物園に行こう! みんなの図書館
- 28 甲冑スタンプラリー開催中! 今月の手話
- 29 のみまるごとミュージアム
- 30 まちのできごと
- 32 わたしとこの町
- 34 子育てに関する情報
- 35 相談・国際交流・ご寄附
- 36 イベント情報



特集 「住み慣れた家で自分らしく」を支える

訪問介護・看護 という仕事

—— 来るのを待ってるんやわ。
 —— 昨日はお風呂に入れてよかった。まだまだ家でも大丈夫やわ。
 —— ありがとう。ご苦労さま。あんたが来てくれるさけいろいろできるんや。
 —— 話を聞いてくれるだけでいい。顔を出してもらえただけでいいんやわ。

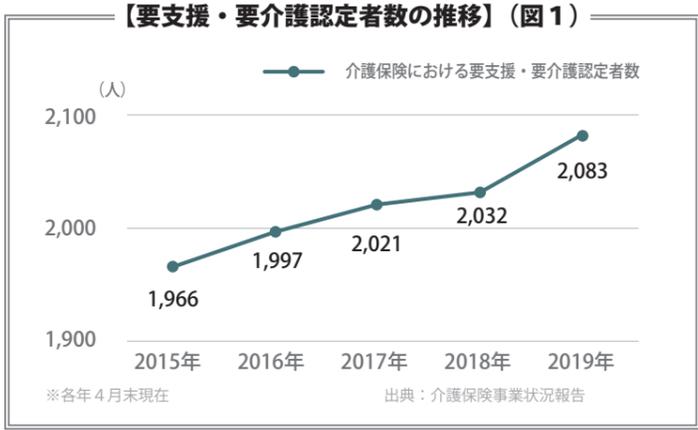
これらは訪問介護や訪問看護を利用された市民の声です。住み慣れた家で、地域で、生活していきたい。そんな思いの実現を支えるために働いている人たちがいます。

自宅で利用する福祉サービス・医療的ケアがあります

皆さんは訪問介護・訪問看護というサービスをご存知でしょうか。訪問介護はホームヘルプサービスともいい、訪問介護事業所のホームヘルパーがお宅に訪問し、食事や入浴のお世話をする身体介護、掃除や洗濯などの生活援助を行うサービスのことで。そして訪問看護はホームナースングともいい、看護師(ホームナース)などがお宅に伺い、一人ひとりの病気や障がいに応じた看護サービスを行うことです。それぞれケアマネジャー(※)が立てたケアプランや相談支援専門員が作成したサービス等利用計画、医

能美市でも高まる 介護・医療の需要

10月1日現在、能美市の人口は5万206人。障害者手帳所持者は2342人います。介護保険事業における訪問看護の利用件数は2016年度1659件、2017年度1816件、2018年度1803件と変動はありますが増加傾向にあり、要支援・要介護認定者数(図1)も増加傾向にあります。このように病気や障がいなどにより援助の手が必要な方は身近にいます。2040年には80歳以上の方が現在の約1.7倍になることが予測されており、介護・医療の需要はますます増えていくと考えられます。



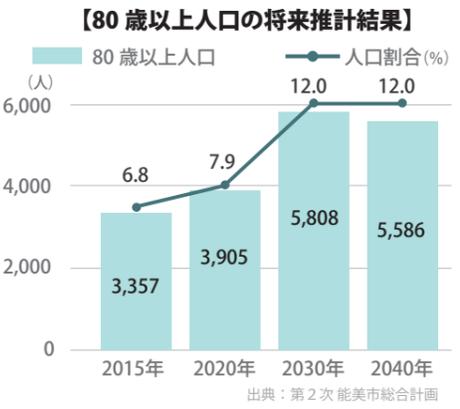
要支援とは…身体上または精神上の軽度の障がいがあるため、家事や身支度などの日常生活に支援を必要とする状態。
 要介護とは…身体上または精神上の障がいがあるため、日常生活の基本的動作の一部または全部について介護を必要とする状態。

【介護保険事業における利用状況】 【障害福祉サービスにおける利用状況】

年度	訪問介護の利用件数(年)	居宅介護の利用人数(月)
2016年度	2,457件	25人
2017年度	2,441件	30人
2018年度	2,616件	30人

出典：介護保険事業状況報告 ※各年度10月提供分

居宅介護とは…自宅で入浴、排せつ、食事の介護等を行う障害福祉サービス



※介護支援専門員。介護を受ける方の意向に沿って介護サービス計画(ケアプラン)を作成し、関係機関と連絡調整を行う専門職。

全ての人に知ってもらいたい介護・看護の現在いま

もしもあなたや大切な人に
介護・看護が必要になったら

「両親が高齢になってきた」「親戚のひとりで住んでいるおじいちゃんは大丈夫かな」元気な高齢者が大勢いるとはいえ、介護・看護を身近に感じる方は多いと思います。「自分は運動もしているし、これまで病気をしたことがないから大丈夫」「若いから介護・看護は自分とは無縁」と思っている方もいるかもしれません。もちろん「要介護」の状態になることを予防するのはとても大切ですが、介護・看護はいつ必要になるのか誰にもわかりません。どなたも決して他人事ではないのです。

例えば、あなたが治療やリハビリをしても半身にマヒなどの後遺症が残ってしまう事故や病気で入院したとします。あなたは後遺症があっても退院後は住み慣れた家に帰って自分らしい生活をしたいという思いでリハビリを重ねます。退院前には、病院のソーシャルワーカーやケアマネジャー、相談支援専門員などの関係者と相談しながら、介護保険申請

や障害者手帳の取得、自宅を生活しやすいように改修したり、ベッドや車いすなど必要な用具を揃えたり、どのようなケアをして、どのような生活になるのか考えて準備をします。そしてようやく退院を迎え、帰宅しますが、自分で何でもしたいという気持ちとは裏腹に、後遺症のためトイレに不安を抱えたり、服薬の種類が多く間違えてしまう可能性が高まったり、さらにベッドに横になれずに転んだらどうしよう、病気が再発したらどうしようとか次々と不安な気持ちで襲ってきます。また、家族に介護してもらおうと思っていたところ、仕事で介護が必要な時間に誰もいない状況も――。

やっとの思いで帰宅したにもかかわらず「そんなになつたら大変やさけ、どこか施設に入っときまっし」と言われたら、皆さんはすぐに「しよがない。わかつたわいや」と言えるでしょうか。家族に気を使ってそう答えてしまい、後でやっぱり住み慣れた家がいい……と後悔することはありませんか。そんな不安を解消し、幸せな暮らしを実現することを

目指しホームヘルパー・ホームナースはお手伝いしています。



目指しホームヘルパー・ホームナースはお手伝いしています。

訪問介護・看護に携わる 市内事業所の声

広報紙の掲載に合わせて、市内事業所のホームヘルパー・ホームナースの皆さんへアンケートを実施しました。

○いろいろな方々へ訪問すること

き、家事や育児との両立が期待できるといった声もあります。皆さんやりがいや使命感を持って勤めています。

付きまとう人員不足の問題 このままでは危機的な状況に

訪問介護・看護では皆さんからさまざまな要望や相談をお聞きしています。「体調によりサービス時間を延ばしてほしい。回数を増やせないか。利用料が高い」といったシステムに関する要望や「働きたい。外に出たい。勉強がしたい。給料が安い。代わりに買い物に行ってもらえないか」というような現状の制度でホームヘルパー・ナースでは心えるのが難しい相談もあるといいます。

昨年実施した市内事業所へのアンケートでは、人員不足で契約を断らざるを得なかったことがわかり、需要に心えきれない現状が明確になりました。

能美市地域自立支援協議会（※）内に属する居宅介護支援事業所はここ2年で2減・2増と数は変わりませんが、ホームヘルパーが平成30年から1年で8人減となり、人員不足が深刻化しています。それでも病院・ケアマネジャーや相談支援専門員から「この時間にサ

で、ドラマよりドラマチックな場面にあたり、人生や命・生死について考えることになったりして、自分のためにもなっていると感じます。

○病棟勤務の中で、家で生活したいと望む人が多く、在宅生活ができる看護がしたいと思った。

○小さい頃より祖母が大好きでいつも一緒にいたことにより、高齢者が好きになった。能美市主催の高校生ボランティアにも参加したことで、高齢者の介護に更に興味を持てるようになった。

○人が好き。

○利用者一人ひとりとじっくり向き合うことができる。

○高齢者の在宅生活を支えたい。これらはホームヘルパー・ホームナースの皆さんに聞いた仕事の魅力や始めたきっかけの一部です。

経歴・勤続年数はさまざま、例えば病院や介護事業所で長く勤めていて、訪問業務へ異動となった人、一般の企業に勤めていて家族の介護・自宅療養がきっかけで介護業界へ転身された人もいます。訪問業務は隙間時間で従事することがで

「サービスに入れませんか」と、問い合わせは次々にやってきます。高齢独居、入院期間の減少、障がいのある方の援護者不在や親亡き後など、難しい問題が増えてきているとはいえず、事業所では安心・安全で満足できるサービスの提供のために利用者の受け入れを制限せざるを得ないのが実状です。

訪問介護・看護に携わる方からは人員不足のため

「ヘルパーの負担が増え、十分な介護ができない」

「質の低下、安全性の低下が心配」

「利用者が満足するサービスを受けられなくなるのではないか」

「自宅で生活したい人ができずに家族の介護負担が増えてしまう」

「必要な人に必要な介護・看護ができずに再度入院する人が増える」

「定年を迎える人も出てきて職員が減っている」

といったサービスを十分に提供できなくなることを問題視する声が上がっています。決して利用者や利用を検討している方を困らせないわけにはありません。人員不足の中、訪問介護・看護に携わる方は、地域の方々や関係機関と連携するなど、さまざまな工夫をしながら現状を維持しています。



訪問介護を利用するお宅の様子。ヘルパーさんが手早く床掃除や食器洗い、洗濯を済ませた後は、協力しながら布団を敷きます(写真1)。紐をきつく結ぶなど細かい作業はヘルパーさんがします。暖かく眠れるように毛布は十分か確認していました(写真2)。利用者の希望を聞きながら食材や日用品の宅配サービスの注文書に記入していきます。時には主婦の目線からアドバイスをする様子も見られました(写真3)。

※相談支援体制をはじめとする地域の障害福祉に関するシステム作りを進めることを目的とした協議会。協議会内の事業所連絡会訪問系には訪問看護6事業所・居宅介護5事業所(うち訪問介護事業所を兼ねるが4事業所)が参加しています。

こんにちは能美市立病院訪問看護ステーションです。



皆さんは訪問看護ってどんなことをするかご存じですか？

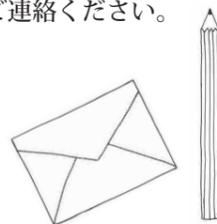
訪問看護は病気や障がいを持った人が住み慣れた地域やご家庭でその人らしく療養生活を送れるように、看護師がご自宅へ訪問し医療や看護ケアを提供する制度です。

当院の訪問看護は専属の看護師5人が能美市および能美市周辺の利用者さんのお宅へ伺い、健康状態のチェックや医療処置、日常生活の看護、リハビリ、療養生活の相談、終末期の看取りなどを行っています。地域のクリニックとの連携はもちろん、病院の訪問看護ステーションということで、緊急の入院や時間外の対応を外来と協力してスムーズに対応できることが特色としてあげられます。

ここ数年は利用者さんが増加しており、特に呼吸器を利用する方や尿の管を入れた方、自宅での看取りをする方など医療度の高い方が増えています。「看護師さんが来てくれて安心や、おかげで家におれる」と言ってくださる声に私たちも誇りとやりがいを感じています。今後も利用者さんが望まれる生活を看護サービスの提供によりお手伝いさせていただきます。

病状の悪化を防ぎたい方や自宅での最期を迎える場合など幅広く対応させていただきますので、現在お悩みの方、詳しくお聞きになりたい方はお気軽に訪問看護ステーションにご相談ください。訪問看護ステーションは市立病院と渡り廊下で繋がった建物の1階にあります。お電話での相談もお受けしますので下記の番号へご連絡ください。

能美市立病院訪問看護ステーション
TFL 0761-68-0393
平日（月～金） 8時30分～17時15分



自宅での看護・介護の意義

市内事業所のホームヘルパー・ホームナーズの皆さんに自宅で介護や看護することの意義を聞きました。「住み慣れた自宅での生活を支えることができる。地域との交流ができる。その人らしい生活を見守りながら支援ができる」「今まで生活してきた地域だから顔馴染の方がいたり、いきつけの店があり安心できる」「利用者の立場に立ち、希望に添った支援が可能」「実際の生活状況を見て看護ができる」「介護の知識が全くない家族に対して介護の情報や技術を直接伝える事ができる」「病院では言えない事を、ゆっくり聞く事ができる」

現場で働くホームヘルパー・ホームナーズさんたちは、自宅での生活を支える必要性を実感し、利用者の状況に応じたサービスを提供することにより、多くの満足したお話を聞くことができます。

訪問介護 あるご家庭の記録



「こんにちは。よろしくお願ひします」玄関で明るく元気な声が響く。「今日は温かくなりましたね。ご飯は食べていますか」ヘルパーさんはやさしく語りかけます。

本日取材にお伺いしたお宅の方は、週2回訪問介護を利用しています。ヘルパーさんが来てどうですかと尋ねると「とにかく助かっていますよ」と笑みをこぼします。

訪問して初めにすることは、体調や困っていることがないかの確認です。利用する方のその日の体調や様子に合わせて作業の内容を決めます。「体調を見ながら、利用者が自分で出来ることはなるべく自分でしていただき、どうしても難しいことを中心に私たちが作業していくんです」とヘルパーさんは言います。

訪問時間は1時間以内と限られているため床掃除や食器洗い、浴室・トイレの清掃など手際よく進めていきます。「居間に掃除機をかけますね」「次はゴミをまとめますね」作業の前には必ず声をかけます。冷蔵庫の中を一緒に確認する場面では「まだたくさんありますね。あ！この冷凍食品おいしそう」など会話が弾みます。

ひと通り作業を終えると、日常会話を織り交ぜながら記録簿をとり、次の訪問日時を約束します。最後は「今日はたくさん動きましたので、しっかり水分補給してくださいね」と気遣い、笑顔で家を後にしました。



たまった食器を手早く洗います。



冷蔵庫の中のを1点ずつ確認していきます。

訪問介護・看護で働くということ

暮らしやすさを実感できるまち、能美市へ

もしもホームヘルパー ホームナースが増えたら

もし、ホームヘルパー・ホームナースが増えたならば、必要としている方に必要なときに訪問のサービスを提供することができ、新規の方も断らずに受け入れることができます。また時間の融通が利くようになりますので、退院直後の短期介入や、日中だけでなく夜間の訪問を組むなど多様な家族の在り方に対応できるようになります。さらに、余裕が生まれることで、サービスの向上や安全の確保が可能になり、する側もされる側もお互いに満足のいく介護・看護を提供することにもつながります。

能美市で暮らす方の「住み慣れた自宅で自分らしく暮らしたい」という願いを叶えるためにはホームヘルパー・ホームナースが必要です。高齢者も障がいのある人もない人も、誰もが暮らしやすさを実感できるまちへ、一歩踏み出してみませんか。

もっと多くの方々に 訪問の仕事を知ってほしい！

障がい者の理解啓発イベント「ぼくらの街フェス」にブースを設け訪問の仕事の魅力を紹介します！

日時 12月7日(土) 11時～

場所 根上総合文化会館

市内各事業所の多くはスタッフの募集をしています。訪問の仕事に興味のある方、以前やっていて、またやってみようかなという方。ゆっくりお話しませんか？現役ホームヘルパー、ホームナースがお待ちしています。

興味を持った方は お近くの福祉事業所やハローワークへ

ホームヘルプ・ホームナーシングの仕事に興味を持った方は、お近くの福祉事業所やハローワークにお問い合わせください。ご自宅での介護や看護、家事のお手伝い、外出の同行など、希望に応じた仕事がきっとあります。ご経験者の復職のお手伝いもしています。

- ハローワーク小松 (☎ 0761-24-8609)
- 事業所については市ホームページからも一覧がご確認いただけます。

